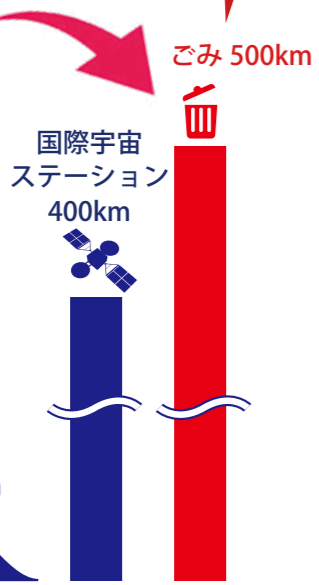


日本の年間
ごみ総排出量
4,227万t

※ R2 総務省調べ



日本の年間のごみは、25mのプールに例えると、約42万杯分となり、その高さは何と国際宇宙ステーションよりもはるかに高い位置になります。私たちはそれだけ多くのごみを年間排出しています。

時 代によって変化してきた廃棄物に関する課題に対して、国は様々な対策を行い適正な廃棄物処理を推進してきました。

循環型社会を作るため、本市においても平成12年から国が定めた基準に基づいて、3R（リデュース・リサイクル）を進めていますが、一人当たりのごみ排出量はなかなか減少していません。また、近年はコロナ下により家で過ごす時間が増えたことで、事業所ごみより家庭ごみが増え、ごみの質も変化。さらには、私たちが納める税金によって賄われているごみの処分費用は、年々増加しているなど、ごみ処分に関しては様々な課題があります。ごみを減らすことは今後私たちが生きていくうえで重要な課題の一つであると言えます。

庭ごみが増え、ごみの質も変化。さらには、私たちが納める税金によって賄われているごみの処分費用は、年々増加しているなど、ごみ処分に関しては様々な課題があります。ごみを減らすことは今後私たちが生きていくうえで重要な課題の一つであると言えます。

ごみが出ない日はありません。しかし、どうすればごみを減らすことができるかを考えることはできます。今後住みよい環境を維持するため、私たち一人ひとりにできるごみ減量について皆さんも考えてみましょう。

どうすればごみを減らせるか



減らせるごみ

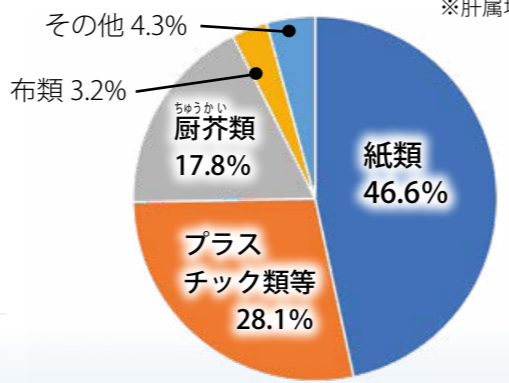
本市の資源化率の推移

排出したごみを資源物にした割合を資源化率といいます。本市における資源化率は年々減少しており、分別を徹底して資源化を進める必要があります。

H22 : 17.6%
H26 : 13.85%
H30 : 13.41%
R2 : 12.79%

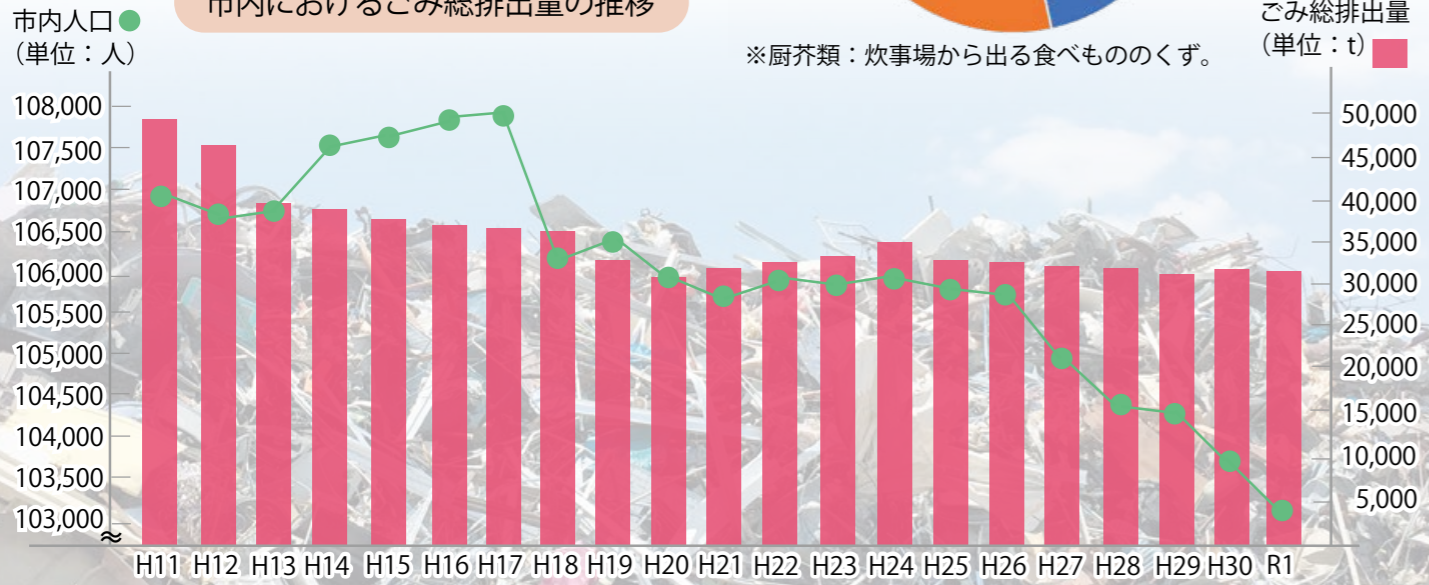
ごみの組成分類 (令和2年度)

※ 肝属地区清掃センター提供



※ 厨芥類：炊事場から出る食べもののくず。

市内におけるごみ総排出量の推移



私たちが生活する中で必ず出るごみ。それがごみになるか資源になるかは私たちの行動で変わります。これからの未来のため、また持続可能な社会を実現するため、私たちが身近にできることを考えます。

